

萩市須佐地域

公民館だより

令和8年

2月

第631号

須佐地域生涯学習推進
マスコット「まな坊」

※題字は昭和48年発刊第1号時のもの

**集おう！学ぼう！
手をつなごう！**

発行/須佐公民館 〒759-3411 萩市大字須佐4570-1 TEL08387-6-2310 FAX08387-6-2030
弥富公民館 〒759-3302 萩市大字弥富下4043 TEL08387-8-2044 FAX08387-8-2212
特定非営利活動法人 須佐元気なまちづくりネット



須佐みことマラソン大会

中学生・高校生・一般の3kmと5kmのスタート！



本町通りを走る小学生



仲よく走る親子「がんばれー！」

《今月の話題》

- 須佐地を走るマラソン大会・・・・・・・・・・1、2P
- 弥富地区・須佐地区：しめ飾り作り・・・・・・・・・・3P
- 公民館年始初の行事を開催・・・・・・・・・・4P
弥富：ワカサギ釣り、須佐：生き活き教室
- 3月の地域行事予定・・・・・・・・・・10P



年末最後のスポーツ大会に挑む

年に一度の自己体力勝負!



年の瀬の迫る12月21日(日)、第7回目の「須佐みことマラソン大会」が開催されました。

今回は、大湊寺入口までの往復1kmに、保育園ファミリーの部と小学校1、2年生14名が、松原までの往復1・5kmに小学校2、3年15名が、松原上までの往復2kmに小学校5、6年生10名が、ほたる橋先の吉田工務店倉庫までの往復3kmと中畑の旧バス停手前までの往復5kmに中学生、高校生、一般の35名がそれぞれ挑戦されました。

参加者は、毎回、須佐地域だけでなく田万川地域からの参加者もおられ、このみことマラソンを楽しむにされておられるようでした。

須佐文化センターホールで開会式を行い、須佐中学校3年生の中本ほなみさんが力強く、選手宣誓を行った後、選手たちは、スタートに向けて準備を整えていました。

当日の天候は、前日まで雨模様でしたが、気温は少し低いものの、雨は上がり天候良く、マラソン日和となり、だんだんとスタート時間が迫ってくると同時に、選手たちも気合が



選手を代表して選手宣誓をする中本ほなみさん

入っているように思えました。午前10時。いよいよ最初の往復1kmに挑戦する選手が、須佐診療センター横のスタート地点から、一斉に走り出しました。

小学校1、2年生は、まだ走るのが楽しい時期。ここにこ顔でスタートしていました。また、ファミリーの部では親子手をつながず、子どもは「一人で走るんだ!」という意欲満々で、真剣な顔つきで最後までしっかりと走っていました。(表紙写真)

最初のスタートから10分後に、次の往復1・5kmに挑戦する小学校3、

4年生がスタート。その10分後には、往復2kmに挑戦する小学5、6年生が、そして最後は、10時25分頃に3kmと5kmに挑戦する、中学生と高校生、一般の部がスタートしました。

距離がだんだん長くなればなるほど息が切れて、だんだん苦しさも倍に。そんな中、「がんばれっ!」と沿道から応援する地域の皆さん、また、ゴール間近では、先に走った小学生たちが走ってくる選手たちを出迎えており、手を叩きながら「がんばれっ!」「もう少し!」と元氣よく応援してくれて、選手たちも、とても励みになったと思います。



2kmの折り返し地点(松原)回る選手達



クリスマスキャラクターに扮した応援隊

また、今回も着ぐるみを着た応援隊がスタート・ゴール地点で、最初から最後まで、選手達を応援していました。

第7回目の5kmの勝者は、今年も2高津府制さん(田万川)でしたが、

選手一人ひとりが大会に向き合い、自己ベストを目指して走り切ったのではないのでしょうか。

今年の年末は、一般の参加者も多く参加することを期待しています。また、今年の大会を楽しみにしたいと思います。



表彰式の様子(左から2番目が高津さん)

年末の行事

クリスマス会で 楽しく交流!



弥富子ども会・弥富公民館

12月20日(土)、弥富交流促進センターで、クリスマス交流会を開催しました。参加者は、須佐地区の参加者を含む小・中学生とその保護者、地元老人クラブ、また帰省者の方の27名と多くの方が参加されました。

はじめに老人クラブの方にご指導いただきましたが、しめ飾りづくりを行いました。左縄をなうのは難しく、なかなかうまくいかない子もいましたが、老人クラブの方の手ほどきを



親子でわらないを楽しむ様子

いただきながら、なんとか形にできたようです。中にはとても上手な子もいて、3本縄いに挑戦している子もいました。作り終えた後は、自分で作ったしめ飾りを持って、全員で記念撮影をしました。

しめ飾りづくりの後は、参加者全員でポッチャを行いました。8チームに分かれて、2ブロックの総当たり戦を行い、最後に決勝戦を行いました。ポッチャは簡単なルールのた



交流ポッチャを楽しむ参加者

め、老若男女問わず楽しめるスポーツです。小さな子もすぐに慣れて、ポッチャを楽しんでいました。どの試合も接戦が多く、様々な駆け引きも楽しむことができたようです。特に決勝戦では、ハイレベルな戦いとなり、大変盛り上がりを見せました。最後に、老人クラブの皆さんへのお礼のあいさつの後、ケーキなどの参加賞を受け取って解散となりました。来年度も多くのご参加をお待ちしております。

手作りのしめ飾りで 新年を迎えよう!

須佐のびのび教室

須佐公民館では、12月25日(木)

の午前中にのびのび教室が開催され、今年は小学生から大人まで23名が参加し、しめ飾り作り挑戦しました。年々子ども参加人数が減る一方で、大人の参加が増えていきます。そんな中、子ども達の参加を促そうと、今年は少し趣向を凝らし、些細なクリスマススイベントも用意することにしました。

しめ飾り作りを指導して下さったのは、斉藤精さん(本町下)と、今回から中村孝さん(中畑)も加わっていたことになり、指導力もアップしました。

最初に、しめ飾りをする意味や飾る時期、作るそれぞれの材料の意味



中村さんにわらのしやり方を教わる児童

などを学んでいただき、早速しめ縄作りから作業を始めました。

わらで編むしめ縄作りは、いつも苦戦される参加者。初心者はともかく、毎回参加されている方でも、一年空くと「どうだったつけ?」と慣れるまで手間取る姿もありましたが、

2人の指導のおかげで全員りっぱなしめ飾りができました。

その後、一人ずつ手作りのしめ飾りを手に持ち、年末最後の記念写真を撮りました。



満面の笑みで写真撮影!

でも、これだけでは終わらず、鈴の音が聞こえてくるとサンタさんが登場!子ども達にはお菓子を、大人にもエコバックと靴下の入ったプレゼントを手渡すと、全員大喜び!特に大人は「私たちにもあるの?」と予想もしなかった事態に、子ども達より喜んでプレゼントを受け取っていました。

今年はどんな年になるのかな、参加者は期待を胸に、手作りのしめ飾りを玄関に飾って、年神様を丁寧にお迎えされたことでしょう...

年始の行事

ワカサギ釣りを満喫！



弥富子ども会

1月6日（火）、弥富地区子ども会育成連絡協議会の冬休みの恒例行事でありますワカサギ釣りに、弥富つ子4名が下関市豊田湖へ行きました。

豊田湖に到着し、まず管理棟で釣り竿を借りて、昨年もご指導いただいたワカサギ釣り名人の五嶋先生と塩川先生に教わりながら仕掛けを作っていました。

準備ができたなら、早速、ワカサギ釣りの開始です。子ども達は、釣り名人にワカサギ釣りの大事なポイントを教えていただきながら、ワカサ



「見て！2匹釣れた～！」

ギ釣りを楽しみました。水不足により水位が下がっていることもあってか、湖底近くまで仕掛けを降ろして釣るため、残念なことにブルーギル（外来種の一つ）が多く釣れました。ワカサギの方は、昨年は208匹の大漁でしたが、今年は48匹に留まりました。水不足と天候が良かったこともあり、喰いつきが悪かったかもしれません。それでも参加者全員ワカサギを釣り上げることができ、大満足のようでした。

最後に、



釣れたワカサギを持って、写真撮影に臨む子ども達

五嶋名人からワカサギのお土産もいただき、子ども達から「楽しかった」という声が入り、とても有意義な一日になりました。懇切丁寧にご指導いただきましたお二人の名人、誠にありがとうございました。参加された皆さん、ワカサギは美味しくいただけましたでしょうか？

お正月遊び

大盛り上がり



生き活き教室つどい会

今年初のつどい会は、1月7日（水）に恒例の新年会をしました。

まずは二つのグループに分け、手作りすごろくで今年の運試しをしました。1つは須佐のまち歩きバージョン。もう一つは人生すごろくです。ゴール手前にはコース半ばまでワイプするマスもあり「あーっ、あと少しだったのに！」とどちらのすごろくも大笑いしながらされていました。

その後、「ボブ辞典」というカードゲームをしました。カタカナの課題を日本語だけで説明するというカタカナ禁止ゲームです。すごろくのグループで、説明するグループ・回答をするグループに分かれました。例えば、お題は「マスターキー」で説明が「すべての鍵・全部開けられる・鍵の親」などがでて「スペアキー」「オートロック？」などなかなか答えが出ません。説明をする方もカタカナを使わずにどうやって説明しようかと頭を悩ませ、最後に「喫茶店」というヒントがでると「マスターキー！！」と顔を輝かせてすっきりした表情で正解を出していました。



「〇コ進から…1、2、3…」

また、坊主めくりや百人一首も行いました。坊主めくりは、つどい会特別ルールで行いました。意外とこの坊主めくりが盛り上がり、カラフルな畳の札がでると一番手札の多い人からもうことができて、もらえたあと喜んでいたら、今度は別の人から「それちょうだい♪」と指名されたりして悔しがらる姿や、手札が増えてきたところに坊主の札が出てしまい、手札が0になるなど、最後まで勝負の行方が分からないというところに皆さんはまったようです。

そして、年始の昼食は手作りではなく仕出し弁当を注文して、おいしく食べました。新年早々、初大笑いの賑やかなスタートとなりました。



豪華なお弁当！

子育て支援日記

テーマ／おじいちゃん、おばあちゃんの知恵袋

「心に生きる祖父母の言葉」

育英小学校校長 石川幸男

「お父さんとお母さんの言うことをよお聞いて、賢くなりんさいよ。」

「学校じゃあ、先生の話をよお聞いて、賢くなりんさいよ。」

祖父母がお小遣いやお年玉を渡してくれる前に、毎回、必ず言っていたことです。私は、当然「はい！」と返事をします。

私は、子どもの頃、夏休みや冬休みになると祖父や祖母が住む島根県益田市へよく行っていました。祖父と祖母は個人商店を営んでいました。祖父は朝早くから市場へ仕入れに行き、帰ってくるると祖母と一緒に商品を陳列したり魚をさばいたりして店を開ける準備をしていました。店を開けると、店の前をホウキで掃いた水まきをしたりします。時には、お店の前だけでなく、道の向かい側やお隣さんの辺りまで掃除をしていることもありました。

不思議に思った私が、なぜ店の前だけでなくお隣さんの辺りまで掃除をするのか尋ねてみると、祖母は店

の仕事をしながらこう話してくれました。

「お店のごみが落ちとつたら迷惑かけるけえなあ。昔から『向こう三軒両隣』って言う言葉があつてなあ、お隣さんやお向かいさんとは困ったときに協力せんにやらんから、いつも仲よくせんとなあ。

それに、みんながそうやって少し先まできれいにすりやあ、周りがいつもきれいなままになるじやろう。」

子どもながらに、確かにそうだなあと思ったことは、今でもよく思い出されます。

店での朝の作業が一通り終わると、祖父と祖母は夕方遅くまで交替で店番をしていました。祖父は、祖母が



店番をしている間に、よく近所の河川敷や小学校の校庭に連れて行ってくれました。歩いて行くので、行き帰りの間には、学校でのことや家でのことなど、たわいもない日常の出来事を中心にいろんな話を聞いてもらいました。じつとすることが苦手な私は、店舗兼自宅であった祖父母の家にずっといると我慢できなくなり、建物の中を走り回っていました。きつと、祖父も祖母もそんな中では私の話をゆっくり聞くことは難しいと感じたのでしよう。外に連れ出すことで、歩きながら会話をしたり、体を動かして遊びながら話を聞いたりしてくれたのだと思います。

そんな祖父母がよく言っていた言葉が「もったいない」。

祖父母は戦争を経験し、物がないうちで生活してきた人でした。私が物心つ

いた頃は、戦後三〇年以上が経ち、暮らしが豊かになっている時代でした。食べ物はずっとたくさんあり、鉛筆や消しゴムも種類が豊富で、祖父母からすると贅沢な時代と感じていたことだと思っています。

そんな時代に祖父母がよく言っ

いた「もったいない」という言葉には、こんな意味が込められていました。物を買うにはお金がかかります。お金をもらうには働かなくてはなりません。一体、どれだけ働けばこのお菓子が食べられるのか、どれだけ働けばそのおもちゃを手に入れられるのか。働くことで手に入れたお金でほしいものを買うことができます。そうして手に入れたお金で買ったものは、きつと大切にすることは本当に必要なもの、手に入れたものを吟味することができるといふことなのでしょう。物があふれる時代に突入していた時に、個人商店を営み、現金収入で生活していたこともあり、祖父母が感じていたことを「もったいない」という言葉に表していたのだと思います。

子どもの頃に聞いた祖父母のたくさんの言葉が今でも私の心に残っています。子どもの頃にはピンとこ

なかつたことも心の片隅に残っていることで、時間が経ち、成長するともに、

その先の人生や人格形成につながるのかもしれないね。



地域の原動力

公民館

奮闘記

55



旧 須佐町中央公民館

復旧から復興へ

予期せぬ事態は、平成7年1月17日阪神・淡路大震災、平成23年3月11日東日本大震災、豪雨災害は、毎年のごとく発生し、多くの尊い人命を失っています。災害から学ぶことは、まず人ごとでは無いことです。

本当に命がいくらあっても足りません。今から思えば、私自身も怖かった思い出は沢山ありますが、そんな底でも、皆さんが助けてくれた思いは、いつまでも忘れることはありません。

音楽の力が心を和ます

平成25年の大災害を振り返ってみると、まずは被災された皆さんが、特に子どもや高齢者が元氣を取り戻してほしいと、須佐になじみのあるピアノスト・中島剛さんによるミニコンサートが8月27日開催。



クラシックの音色が心を和ます

そして、10月8日には、アニソン歌手のきただにひろしさん(山根丁西出身)とヒップホップ歌手の三浦哲(山根丁東出身)さんによる復興ライブが須佐文化センターにて開催されました。

3人の心温まる訪問は、災害で冷えて切った須佐の皆さんの心を少しでも温めることにつながりました。訪問された3人の方々も、災害の最中、かえって邪魔になるのではと躊躇

躊躇されたと言われていましたが、元氣な皆さんの顔をみることで、かえって力をもらったとの感想でした。全国的な災害の中でも、こうして被災地に向く姿をよく見かけますが、音楽で何か元氣を伝えたいとの気持ちが、皆さんの活動でしっかり受け取ることができました。本当にありがとうございました。



きただにひろし さん



三浦 哲 さん

そして、住民のサイドからも支援されるばかりではなく、自らも動き出したいとの機運も出始め、元氣もりもり祭りへと動き出しました。

元氣もりもり祭り開催

豪雨災害から3ヶ月が経過し、町中は、復旧作業が進みました。そんな中、須佐公民館では、夏行事が豪雨災害のため中止となっていた一方、子ども達が楽しみにしていた夏休みも無くなり、何もかもが復旧の日々。何とか皆さんの元氣な姿がもう一度見たいとの思いで、みんなが集える祭りを創ろうと「元氣もりもり祭り」が始まりました。



3000羽の祈りは叶ったのか・・・

祭りでは、当時の人口の3000羽折り鶴を作ろうとのイベントも開催し、自分達が資金を出し合いながら本場の手作りの祭りとなりました。その後もふるさとまつりの無い年の恒例行事となりました。

ぶらぶら

まちあるき



タモリに負けずわが町を紹介

「ブラタモリ」ならぬ『ぶらぶらタムラ』が、わが町を紹介します。

今回は、前回に引き続き「禁門の変と須佐」須佐兵達の活躍を紹介します。

禁門の変前夜

これまでの長州藩の猛運動により文久3年(1863)年5月10日が攘夷決行の期日に定められたので、長州藩ではその日を期して下関で外国船攻撃の火ぶたを切る事になりました。

しかし、領主益田親施(ちかのぶ)は、家老として下関に出張しましたが、直ちに萩に戻って来ました。そこで急に藩主毛利敬親(たかちか)に命じられ、毛利定広(さだひろ/敬親の子)から直筆の黒印令状(墨を使った印章で、主に領主が公文書に用いた。)を渡されましたので、急

いで7月11日に京都に到着し、それから、京都の志士達と協力して公卿(こうきやう/公家の最高幹部)に働きかけを強めて、「攘夷(じやうい)親征の降勅(きやうてふ)を天皇自らが兵を率いて征伐に出て行く」を願ったところ、ついに8月13日になり、天皇は攘夷祈願のため大和に行幸(てんかう/天皇が外出)することになりました。

七卿落ち

ところが、8月18日中山宮(公家)や会津藩等の計画によって朝議(朝廷会議)は、にわかに一変して行幸(天皇が外出すること)は中止となりました。そして、それまで勤めていた長州藩の堺町門(御所)の警備も止めさせられた(8月18日の政変)。親施は、その夜妙法院において京都の志士達や藩の役人を集めて大会議を開催し、慎重に協議した結果、ひとまず国(萩)に引き上げて、方針を建て直すことに決しました。そして、参朝(朝廷に出仕する)を差し止められたため、長州藩邸に身を寄せた、長州側の公卿方の三条実美をはじめ7名を護衛して8月26日京都を出発しました。これが有名な七卿落ちです。



長州藩士とともに7人の公家たちを描いた七卿落図

三条実美をはじめ公卿の7名は、歩くことに馴れないため、足甲を傷つけて真っ赤な血で染まったと記録にあります。御所の一大事と聴いて、近所の村民達はいずれも姿をくらまして、駕籠はあつてもこれをつぐ壮丁(元氣な成人)は居らず、何とか逃げ出した壮丁を捕え、強制的に七卿の駕籠をかつがせ、再び雨の中を西へ下って行きました。後方に待機する部隊としては、益田親施の手勢がこれを承り、会津・薩摩藩の追撃に備えました。

歴史の証人今もなお

京都御所蛤御門の変

JR京都駅から地下鉄烏丸線に乗って「丸太町駅」または「今出川駅」で下車して、幅員100m道路に沿って、徒歩5分の所に白い塀に囲まれた広大な敷地が見えます。その一角の道路に沿って見えるのが歴史の生き証人「京都御所・蛤御門」が整然と建っています。

見張るがごとく大きい門柱には「蛤御門銃弾の跡」を表記した説明パネルを見ることが出来ます。

この地内で、今から162年前に思想の違いと権力闘争で長州藩と会津藩・薩摩藩等との銃撃があつたのか、と思うとやりきれない気持ちになりました。

この「蛤御門の変」の戦いに長州藩の私達の先人、つまり領主益田親施公をはじめ須佐兵約300人に及ぶ多数の兵士が、須佐の領地から京都の地まで、お国のためにと長旅を行進し参戦したのです。

当時殿様の命令の一言で無参戦した兵士の出来ることは、戦いの出来る体制と身支度(鎧、兜、刀等)であつたと思われます。

「地域おこし協力隊の山本です!」

須佐へ来て2年が経ちました

令和6年1月に須佐へ移住し、着任してから丸2年が経過しました。僕のミッションは「須佐公民館を拠点とした地域づくり・人づくり」で、自身の裏テーマとして「この地域に馴染むこと」を掲げています。今でも常に模索中というのが正直な所です。現在、須佐公民館を中心に「スマホなんでも相談所」「須佐公民館スマホクラブ」「韓国カフェタイム」等をやっています。少しずつ声を掛けて頂く機会が増えて、家族丸ごと

地域の一員として受け入れて下さっている事を実感し、とても嬉しく、深く感謝しています。

任期は残り1年弱となり、退任後の生活には大きな不安もありますが、これからも須佐に住み続けたいと思っています。残り1年、これまでの活動は維持しつつ、退任後へ継続できる方法を考えたいと思っています。皆様、どうかお知恵をお貸しください! よろしくお願いします!

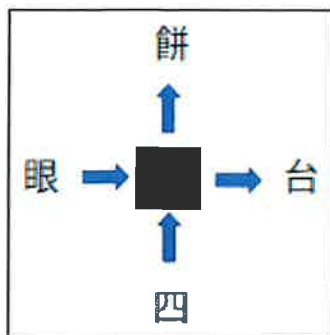


漢字クイズで・ゴー!

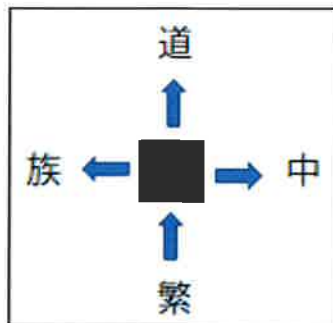
次の①〜③の■に入る漢字を解き、3つの■の漢字でできる三字熟語を答えましょう。

(正解は最終ページにて記載)

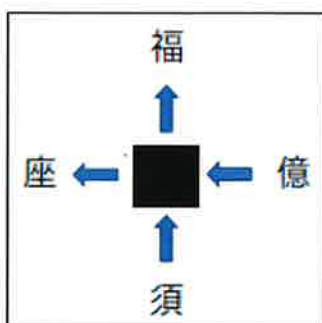
①



②



③



★答え＝



お篤ちゃん

まちの駐在さん



Q: 「SNS型投資・ロマンス詐欺」って何ですか?教えてください。

「お答えします」

弥富駐在所: 袈裟丸篤史

県内では、「うそ電話詐欺」と同様に「SNS型投資・ロマンス詐欺」の被害が多く発生しています。

投資詐欺の特徴としては、Instagram (インスタグラム) 等のダイレクトメッセージからLINE等に誘導され、その後、「必ず儲かる」といった誘い文句で株式投資などを勧められて被害にあっています。著名人をかたるバナー広告等にも注意してください。

ロマンス詐欺の特徴としては、マッチングアプリで知り合った、相手とLINEなどでやり取りする中で投資を勧められ、だまされるケースが多くなっています。

被害者の年齢層は、20代から50代の方が約8割を占め、ネットバンキングや暗号資産などで複数回にわたり、多額の現金を送金しています。



被害にあわないためには「あなただけに教える」「LINEの投資グループへの招待」「あったこともない相手からお金の話」などは、詐欺を疑い、すぐに連絡を絶つことが重要です。あなたの資産が犯人に奪われないように、防犯意識を高めていきましょう。

生涯学習作品コーナー



歴史ある地層 須佐中2年 兒玉斗輝



僕の癒しは推しと夕日 須佐中2年 角野奏吉

須佐美術展作品紹介



初夢に去りにし君の笑顔会い
覚めても尚も心弾みて

(山根丁東) ゆめはるか

さくらの木花も葉っぱも脱ぎ捨てて
この季をおえし冬の公園

(青葉台) 田村雅利

【短歌】

寒風に耐えて踏ん張る梅つぼみ

(山根丁東) ゆめはるか



大塚 均 (1911-1998)

国際文通習慣 日本橋 安藤広重

原画は歌川(安藤)広重の版画である。江戸から京都へ向かう東海道の起点である日本橋。その東海道を描いたシリーズの巻頭を飾るにふさわしく、参勤交代の大名行列が朝早く江戸を出発する様子が描かれています。一方で、魚を天秤棒で担いだ一団が、向こう岸にあった魚河岸から仕入れを終え、行商に出かける様子も描かれており、江戸で一番賑わっている早朝の日本橋の活気が伝わってきます。昭和37年10月7日5円記念切手が発行された。大塚均50歳筆の作品です。



このコーナーでは、切手デザインの大家である大塚均(山根丁東出身)さんがデザインされた約120点の作品を随時紹介しています。

切手カバー図案も合わせてお楽しみ下さい。

須佐の偉人伝 大塚均

107

2026		2月 地域カレンダー				
日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 	2 麻雀クラブ 13:00 ピンポン 13:30	3 須 パッチサークル 9:30	4 つどい会 10:00	5 学 育英小仮入学	6	7 学 須佐中オープン スクール:志宣言
8 ■県知事・衆議院議員 選挙投票日 須 韓国カフェ 13:30	9 須 スマホ相談所 9:00 エコクラフト 9:30 麻雀クラブ 13:00 ピンポン・ボッチャ 13:30	10	11 建国記念日 	12 学 育英小参観日	13 手芸クラブ 9:30 囲碁・将棋 13:30 ■無料法律相談 (田万川)	14 
15 弥 体力づくり スケートツアー 8:30 家庭の日	16 麻雀クラブ 13:00 ピンポン 13:30	17 須 あおば勉強室 13:30 学 須佐中仮入学 子育て講話	18 歩こう会 8:45 弥 Gゴルフを楽しむ会 9:30 須 色えんぴつ画 13:30	19 生き活き体操 8:45	20 	21
22	23 天皇誕生日 	24 エコクラフト 9:30 ■心配ごと相談(保セ)	25 須 色えんぴつ画 9:30 弥 音楽療法 13:30	26	27 手芸クラブ 9:30 囲碁・将棋 13:30	28

須=須佐公民館 弥=弥富公民館 生=生き活き教室
 学=学校・保育園行事 緑=スポーツ関係 保セ=保健センター
 子=子ども対象行事 弥G=弥富グラウンド

●クイズの答え
万華鏡(まんげきよう)

★確定申告相談日程

- ・弥富支所
2月24日(火)～25日(水)
- ・須佐総合事務所
3月9日(月)～13日(金)

●須佐あおば勉強室
「ひな祭りのおやつ作りと茶話会」
○とき 2月17日(火)
午後1時30分から

●弥富さつき学級
「室内グラウンドゴルフ」
○とき 3月6日(金)
午前9時30分から

○ところ 弥富交流促進センター
○持参物 室内履きシューズ
○申込み 3月2日(月)までに
弥富公民館 ☎2044へ

○申込み 2月10日(金)までに
須佐公民館 ☎2310へ

○ところ 須佐公民館
○持参物 材料費300円、エプロン
三角巾

伝言板

毎月第3日曜日は「家庭の日」
今月は『15日』です
★家族みんなで過ごしましょう！

須佐地域の人口 (R7.12月末現在)			
	世帯数	人口	前月比
須佐	915戸	1,593人	(△3人)
弥富	206戸	386人	(2人)
合計	1,121戸	1,979人	(△1人)
昨年比	世帯数△19人		人数△78人

編集後記

昨年末からまた一つ商店の灯りが消えて寂しさを感じていると、また3月までには、もう一つ地域の商店が閉店すると聞き驚いています。この物価高で利用者がどんどん減り閉店せざるを得ない理由がよく理解ができません。しかし、よくよく考えてみると地域内の便利さは、近所の零細商店により賄われていたことをつくづく感じます。これ以上不便にならないためには、お互いが助け・支え合う仕組みづくりも必要なのではないでしょうか。